



令和 2 年度（2020年度）

女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業  
事 例 集

令和 3 年（2021年） 3 月  
北海道農政部



# 目 次

令和2年度（2020年度）女性・高齢者チャレンジ活動表彰事例一覧	1
----------------------------------	---

## 最優秀賞

砂子田 円佳（広尾町）	2
-------------	---

## 優秀賞

風連町2区簿記グループ（名寄市）	5
オホーツク楽農カフェ（佐呂間町）	10

## 奨励賞

しべちゃ町農業女性カレッジ	14
---------------	----

## <参 考>

実施要領	17
審査会議出席者（有識者）名簿	19
これまでの受賞団体一覧	20



令和2年度（2020年度）女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業 入賞事例

区分	総合振興局及び振興局	市町村	グループ又は個人名	構成員数	活動の種類	活動の概要
最優秀賞	十勝	広尾町	砂子田 冨佳 すなこ だ まどか	個人	地域社会参画	<p>実行委員としてSAKURA会、酪農女性サミット、南十勝酪農女性プチサミットの開催を主催し、酪農女性のネットワーク活動を積極的に支援することにより経営参画の推進、地域農業の活性化に努めた。</p> <p>また、酪農の魅力を発信するラジオパーソナリティーや、広尾町の農政推進協議会の組織員、北海道農業士として農業の施策や普及活動に取組むなど、幅広く活動している。</p>
優秀賞	上川	名寄市	風連町2区簿記グループ ふうれんちょう くほき	7	経営参画	<p>平成元年より簿記記帳、経営分析等の勉強会を開始した。税務申告を実践し、家族経営協定の締結をしたほか、名寄市のプロジェクトに参画し、地域の家族経営協定の締結推進を支援した。</p> <p>解散したグループ員の受入や若手農業者の指導を行うなど経営参画に係る学ぶ場として活動を推進している。</p>
	オホーツク	佐呂間町	オホーツク楽農カフェ おほーツく らくのう	22	経営参画	<p>佐呂間町、遠軽町、湧別町の3町の女性農業者が中心となり、乳牛の飼養管理のほかコーチングや市場見学、生活設計など多岐にわたる研修会を企画・開催している。</p> <p>研修会には子供や配偶者、3町以外の農業者の参加も可能とし、誰でも学べる環境を作り学習・交流の場として地域の活性化を図っている。</p>
奨励賞	釧路	標茶町	しべちや町農業女性カレッジ しべちや ちょうのうぎようじょせい	5	経営参画	<p>標茶町内の女性指導農業士・女性農業士で構成し、女性の経営参画に向け、乳牛の飼養管理技術や現地視察などの研修会を企画・運営している。</p> <p>研修会には託児所を設けることにより配偶者や近隣の市町村からの参加も可能とし、昼食時にはサロンを開催するなど誰もが参加しやすく、発言しやすい場となっている。</p> <p>また、研修内容が地域や家庭内で話題になることを促すため、JA広報誌への掲載を実施している。</p>

## 最優秀賞

個人名	すなこだ まどか 砂子田 円佳	活動開始時期	平成19年
部門	地域社会参画		
市町村名	広尾町		

### 1 活動の経過

#### ○株式会社マドリンの設立

砂子田氏は、町内の酪農家に生まれた。大学卒業後に2年間、カナダの女性経営者の牧場で酪農実習をし、女性による牧場マネジメントを体験し、帰国後、平成19年に1人で株式会社マドリンを設立し、搾乳頭数30頭で酪農経営を開始した。現在は配偶者と共に、搾乳頭数約60頭を飼養しており、年間出荷乳量680ト、あまりを生産している。



〈砂子田 円佳さん〉

#### ○周囲の酪農女性が心の支えに

就農当初は全てが砂子田氏1人の作業であり、労働時間は長く、牛の移動などにも非常に苦勞をした。分娩事故で牛を死なせてしまうこともあった。また、作業中に話をするのもあまりなく、気持ちが内にこもりがちで作業をすすめていた。

ひとりでの作業に疲れ、経営主としてのプレッシャーに押しつぶされそうになった時に声をかけてくれたのは、近くに住む同年代の酪農女性だった。子育てと農作業に忙しい毎日を過ごしながら話を聞いてくれ、励ましてくれたことは心の支えとなり、その経験から砂子田氏は積極的に町内を中心に情報交換、仲間づくりを始めた。

仲間が集まった際、ほ育や分娩についてなど、自分の農場ではどのようにやっているかが話題に挙がることがあった。その度に砂子田氏は、みな自身の農場に愛情があり、経営や仕事に前向きに関わっていることを感じた。

#### ○酪農女性の意見交換をすすめ酪農を活性化させたい

現在、広尾町の酪農家戸数は64戸であり、今後減少が予測されている。砂子田氏は、酪農家が減少した場合、「広尾町の生乳生産」ができなくなるかもしれないと危惧し、酪農に関係する人たちの理解促進が地域の生産を守ることにつながるとともに、仲間づくりや情報交換を通して酪農女性が酪農、地域を学ぶことが、酪農を活性化させる1歩と考えてきたが、酪農女性に機会は少なく、広尾町ではJAが主催する講習会などの年数回しかなかった。

また、砂子田氏も含め酪農女性は作業に時間をとられ、外出時間の制限が多いことから、より情報交換の機会の必要性を感じ、酪農女性を支援する企画を始めた。

## 2 活動の概要

### ○酪農女性の情報交換の場を支援

砂子田氏は、酪農を活性化させる第一歩として、酪農女性が新たな情報に触れることで自身の役割や仕事を振り返り、仲間と共に学ぶための情報交換会を主催している。これまで、SAKURA会、酪農女性サミット、南十勝酪農女性プチサミットの開催を主催してきた。

SAKURA会では、農業女性の他、全道から様々な農業関連の女性たちが参加して毎年意見交換会を開催している。農業女性をパネラーにしたパネルディスカッション、グループワークなど、学習や意見交換会を催している。

酪農女性サミットでは、平成29年から令和元年まで全3回開催し、全国から参加者を集めた。酪農経営等に関する講演の他に、トークセッションやワークショップを行い、情報交換しつつ、知識も得やすい開催内容とした。

また、地域では砂子田氏の思いに賛同した広尾町、大樹町、幕別町忠類の酪農女性と協力して「南十勝酪農女性プチサミット」を令和元年に開催し、関係機関を含め60人以上の参加があり、ほ育作業をテーマにしてパネルディスカッションを行い、地域の酪農女性が自身の経営や役割に対する想いを発表した。

開催内容は、酪農女性に身近な作業などをテーマとし、他の参加者が日頃思っている疑問や、関係機関の仕事がわかるなど、酪農女性や専門家の意見、経験談等がわかりやすく共有できるよう心がけた。参加者の募集には砂子田氏の思いが理解してもらえるよう、対面した酪農女性に直接伝え、参加者を募った。

また、酪農女性サミットのPRにはSNSを積極的に利用した。SNSで情報を知った酪農女性たちが中国地方や九州地方など全国から集い、参加人数は第3回目は約400名となった。参加者は、相談し合えることで農場での作業に自信が付き、仕事への意欲、学習意欲の向上につながっている。「不安が解消され作業への意欲が上がった」、「発表に感銘を受け自身を振り返り、より農作業意欲が増した」と感想を述べた参加者が多くみられた。



〈令和元年度酪農女性サミット、400名が全国から集まった〉



〈サミットで進行を務める砂子田さん〉

## 3 活動の成果

### ○自分から情報収集、意見交換する女性の増加

酪農女性の行動が農場活性化、酪農活性化につながる第一歩として始めたSAKURA会や酪農女性サミット、南十勝酪農女性プチサミットだが、開催後には自分から情報収集し、農場経営に関わっていかこうとする酪農女性が増え、次のような変化がみられている。

- ①これまで関心をもっていなかった乳価の話聞き、農場の乳価や乳質に気を配るようになった。
- ②広尾町では、酪農女性が経営者に任せていた営農計画書の作成に協力したり、夫婦でのJA訪問がみられるようになった。
- ③JAひろおで開催する学習会への女性の参加者が増加している。
- ④顔見知りとなった参加者同士がSNS上で技術や経営の悩みを相談しあうようになった。分娩介助方法や従業員の雇用など、具体的な悩みの投稿に対して共感や助言がされているなどSNS上にも学習、情報交換の場が広がりを見せている。
- ⑤十勝南部以外にも「プチサミット」を開催した地域があり、地域内での情報交換に広がり生まれてきている。

#### ○女性の声を広尾町の農業に活かす取組の開始

農業における女性の更なる躍進が期待される中、広尾町では初めて女性指導農業士1名と砂子田氏を含む女性農業士2名が令和元年に推薦され、認定された。

また、認定に合わせ、これからの広尾町農業のあり方や次世代の担い手確保・育成、女性が経営参画しやすい環境作りについて農業者の声を活かしていくため、関係機関で構成され農業経営、生産性向上に関する事業に取り組む広尾町農政推進協議会の組織員として指導農業士、農業士が位置付けられた。

## 4 関係機関の支援

- ・広尾町：町及び十勝南部地区農業振興推進協議会を通じた地域酪農女性の活動を支援
- ・JAひろお：営農支援、各活動の後援または協賛。町内酪農女性の活動支援
- ・普及センター：酪農女性の情報交換に向けた支援及び助言

## 5 今後の活動方向

酪農女性の繋がりが広がり、情報交換が気軽にできるようにSAKURA会、南十勝酪農女性プチサミットやSNS情報発信など活動を継続する。

酪農を志す担い手への助言を積極的に実施していく。

農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員として、地域の状況を酪農女性の視点から国に積極的に発信していく。

## 6 有識者による講評

一人で酪農経営をスタートさせた時の閉塞感や情報収集の難しさなどの経験を活かし、酪農女性が新たな情報を学び、仲間と情報交換できる場を主催するなど積極的なネットワーク活動に取り組んでいる姿勢が評価できる。

さらに情報発信にSNSを効果的に使用し、発信力を高め、多くの女性農業者の農業経営への意欲向上、活動支援につながっている。

農業界だけではなく、地域や都市に向けて酪農の意義を伝える活動には目を見張るものがある。





## 優 秀 賞

グループ名	ふうれんちょう くぼき 風連町 2 区簿記グループ	活動開始時期	平成元年
部 門	経営参画	構 成 員 数	7 名
市 町 村 名	名寄市	年間活動回数	10～15回 (2～3回/月)

### 1 活動の経過

#### ○グループ設立の経緯

平成元年に「簿記記帳を通して我が家の経営を把握したい」と意欲的な10名の女性農業者（20代～30代）で『風連町2区簿記グループ』を設立した。

#### ○活動の経緯

##### ・平成元年～平成8年

農業経営と農家経営の仕組みを把握し、簿記記帳やクミカンの仕組みを知り、記帳会での手書きによる複式簿記記帳方法の習得と実践を中心に活動を行った。

同時にグループ設立の目的達成に向け、農業経営のパートナーとして経営技術と生産技術をより深く学びたいとの思いを強くし、普及指導員を講師に学習会を開催し、生産技術の習得・向上にも取り組むようになった。また、平成5年からは、記帳結果を活用した税務申告5名が取り組み始めた。

##### ・平成8年～平成15年

複式簿記記帳方法を習得し、各自のデータが時系列的に集積され、会員間での比較検討を行った。そして、問題、課題の把握と改善策の検討を行い、生産や労働時間等も把握することが必要と実感し、実態に即したデータの集積を目ざし、生産費調査、労働時間調査等に取り組むなど活動の意欲がさらに高まった。

##### ・平成15年～平成22年

近隣市町村の簿記グループとの交流会を開催し、グループ活動、新会員の勧誘方法、農業簿記の活用方法などについて情報交換を行い、今後のグループ活動の方向性について検討を始めた。

また、名寄地区女性農業者グループきらきらネットワーク‘夢’、上川管内女性農業者グループネットワーク‘ほほえみ’に加入し、町村を越えたグループ間交流を進め、役員としてネットワーク運営に携わった。

##### ・平成22年～平成30年

名寄市風連町には、当簿記グループの他に東風連町簿記グループ、3区・西風連町簿記グループ、青空友の会があり、それぞれ簿記の勉強活動を行ってきた。しかし、平成20年頃より会員の高齢化やグループ活動離れなどにより会員の減少に伴い、グループ解散となった。そのため、当簿記グループが受け皿となり、希望者を新たな会員として迎え入れ、女性農業者の経営参画の一翼を担っている。

##### ・令和元年～現在

当簿記グループの活動を知り、経営移譲された若手女性農業者が新たに加入し、手書きによる複式簿記記帳に取り組んでいる。

女性農業者が経営のパートナーとして経営参画するためには、まずは「我が家の経営内容を

把握すること」が必須と考えているため、これからは若手女性農業者や後継者へ経営への興味や関心を高める取り組みに向け尽力している。

## 2 組織体制

### ○役員体制

- ・代表（1名）、会計（1名）

### ○役員の仕事

- ・代表は、学習会の日程連絡（FAX、メール送信）、関係機関との連絡・調整を行う。
- ・会計は、会員からの会費徴収、各種研修会時の参加費、収支決算報告等を行う。



〈風連町 2 区簿記グループ構成員の皆様〉

前列左より代表の上口里美さん、柏谷由美子さん

後列左より寺田智子さん、結城明日香さん、橋本睦子さん

## 3 活動の概要

### ○農業経営と農家経営の仕組みを把握

簿記記帳を始めるにあたり、女性農業者は非農家出身が多く、結婚を機に農業に携わることが多いため、農業経営の知識や技術がない状況であった。そのため、「農業経営」における「お金の流れ」の仕組みについて民間企業との相違点などの理解を深めた。その上で、農業経営を把握することの必要性と重要性や把握方法として簿記記帳が有効であることを理解した。その結果、複式簿記記帳に取り組んでいくことを会員で再確認した。

### ○簿記記帳の仕組みを知る

普及センター職員を講師に①簿記記帳の仕組み（期首、期中、期末での実践内容）、②必要な帳簿類など（資産台帳、貸借対照表、仕分け、元帳、合計残高試算表、精算表、決算、損益計算書、現金出納帳など）、③経営分析、④経営改善など一連の簿記の仕組みについて学んだ。

### ○クミカンの仕組みを知る

普及センター職員を講師に、①営農計画書（営農計画書とは何か）②クミカンの仕組みと見方（日々の取引、毎月の計画対比の状況など）等の基本的事項について学んだ。

### ○簿記記帳の実践

各種台帳を整備し、期首貸借対照表を作成した。そして、勘定科目をグループで統一し、開始仕分け、期中取引を手書きによる複式簿記で取り組み始めた。

令和元年度は、活動を開始した時期が4月であったため「年間記帳（決算まで）」を目標に活動を行った。

記帳会は、11月～3月と冬期間が中心であるため、それ以外の月は各自で記帳を行ない、か

らないことについては普及センターに各自で直接問い合わせ、記帳を進めていった。

#### ○我が家の経営内容を把握

グループを結成した目的でもある「簿記記帳による我が家の経営内容の把握」を達成するために記帳結果をもとに経営内容の把握を行った。

経営内容については、グループ員の比較のほか、北海道、上川単位での比較も行い、コストや収益などについて検討を行い、我が家の経営の状況を把握することができた。

その結果、経営上の問題がどこにあり、どうすれば改善できるかを知りたいといった意欲が高まり、生産費調査、労働時間調査を行い、より正確なデータ収集に努めた。

#### ○税務申告への活用

記帳をはじめから5年経過した平成5年より、会員5名が記帳結果を活用し税務申告を行うようになった。このことは、簿記記帳結果をもとに家庭での話し合いが十分に行われ、正しい記帳内容であることが理解され、女性農業者の役割として、また経営参画への第一歩として位置付けられ、経営内の役割分担として認知された。税務申告を行っていない会員は、経営主が申告する際に記帳結果が活用されている。

#### ○作物別集計表、経営診断表の作成

簿記記帳結果から「経営診断表」を作成し、①経営の成果（農業粗収益、農業所得、農家所得、転作補助金、経済余剰）、②収益性の分析（農業所得率、転作補助金所得率、売上高負債比率、10%当たり所得額、10%当たり農業粗収益、固定資本回転率）、③安定性の分析（自己資本比率、資本固定比率、当座比率、資本負債比率）を求め、当該年度の経営や生産技術、農家生活を振り返り、営農計画や生活設計の見直しに活用している。

#### ○労働時間、生産費調査

税務申告以外に簿記記帳結果を有効に活用するために、作物毎の生産性や労働時間等を把握することが必要と実感し、労働時間の記帳に取り組み実態を把握し、作付けの見直しを行った。

#### ○新たな会員の加入と若手女性農業者の経営参画の意識づけ

解散した別グループ加入者に対して「2区簿記グループで一緒に活動しないか」と希望を募った結果、2名が加入した。

また、当簿記グループの活動を知り、経営移譲された若手女性農業者が新たに加入し、手書きによる複式簿記記帳に取り組んでいる。

女性農業者が経営のパートナーとして経営参画するためには、まずは「我が家の経営内容を把握すること」が必須と考えているため、これからの若手女性農業者や後継者へ経営への興味や関心を高める取り組みに向け尽力している。

#### ○女性農業者グループネットワークへの加入

町村を越えたグループ間交流を進め、役員としてネットワーク運営に携わった。上川管内女性農業者グループネットワーク‘ほほえみ’（以下、‘ほほえみ’）の活動である「上川管内農村女性のつどい」では、農作業着のファッションショーの企画・運営を行うなど、女性の視点で製作された快適な農作業着で大いに会場を盛り上げた。



（記帳会の様子：パソコン・手書きで複式簿記記帳に取り組む）



（クミカンや現金出納帳をもとに入力）

## 4 活動の成果

### ○簿記記帳結果を活した農業経営の展開

簿記記帳、経営分析、労働時間記帳、作物別生産費などに取り組んだことで、個々が我が家の経営状況を把握することができた。また、各種データは時系列に整理されていることから、農業経営に関する問題点、課題を見だし、改善へとつながっている。

特に個別経営においては、限られた労働力から生産性をいかに増加させるかが重要である。この視点から、労働力と収益性を勘案し、家族で品目毎に検討し、施設園芸（ユリ）の作付けをやめて新たな作物に変更したなど簿記記帳の取組が、経営に反映され、経営の発展につながっている。

### ○簿記記帳をもとに経営参画を図る

女性農業者が簿記記帳を行い、税務申告まで行うことは地域でもまれであり、「記帳は正しく行われているのか」、「税務申告まで本当にできるのか」という反応が多かった。しかし、複式簿記での記帳、貸借対照表、損益計算書が作成され、経営内容の把握を目的とした上での税務申告を行っていることが徐々に理解され、経営主が経営管理を全て任せることになり、女性農業者の能力が評価され、さらに経営参画のきっかけとなった。

### ○役割分担の明確化～家族経営協定の締結

簿記記帳による経営参画によって、改めて農業経営や農家生活における役割分担の確認を行う必要を実感した。その確認方法として、暗黙で決まっている役割を話し合い、整理をした。また、現状の分担でよいもの、新たに追加するもの、削除するもの等を決めた。

それをもとに、普及センターから「家族経営協定の締結」を提案し、5名が実効性のある家族経営協定の締結を行った。

### ○「家族の樹づくりプロジェクト」を推進

平成20年から22年から実施した「家族の樹づくりプロジェクト」（家族経営協定締結推進を図るために普及センター、名寄市、農業委員会、JAを構成メンバーとしたプロジェクト）に農業委員として代表を含め3名が参画し、家族経営協定の朗読劇に出演した。その結果、名寄市における家族経営協定の促進につながり、プロジェクトにより22戸が家族経営協定を締結した。

### ○地域における社会参画、経営参画

簿記記帳グループ員から、北海道指導農業士（2名）、農業委員（3名）、JA女性部長、上川地区女性協議会副会長など地域農業を牽引する立場として地域にも認められている。

### ○若手女性農業者の育成を旨とする「すみれの会」設立

平成30年3月に名寄地区の女性指導農業者で組織する「すみれの会」を設立した。当グループ代表の上口氏が設立の発起人代表となり、3名の指導農業士に声掛けを行った。「すみれの会」は、名寄地区の若手女性農業者を対象にし、経営のパートナーとしての資質を高めるため、農業経営や農家生活に関する学習や意見交換会、ランチ交流会などを行い、若手女性農業者の育成を目的としている。

会が設立されてまもないが、地域の若手女性農業者からも好評である。令和2年度は、普及センター、JA、名寄市と連携しながら、「クミカンの見方」、「家族経営協定」、「生活設計」など経営参画を旨とする内容で取り組んでいる。

## 5 関係機関の支援

- ・名寄市：簿記記帳活動、各種研修会参加への助成
- ・普及センター：簿記記帳、経営分析、経営改善等の技術習得、簿記記帳グループの運営に係わる助言、道内における簿記グループの活動に関する情報提供、経営参画に向けた情報提供と実践支援

## 6 今後の活動方向

- ・若手農業者への経営のパートナーとしての経営参画
- ・今までの経験をいかし、若手農業者の簿記記帳と経営改善取組へのアドバイス
- ・家族経営協定など女性農業者による更なる経営参画

## 7 有識者による講評

複式簿記記帳を学ぶことで、作物ごとの生産性や労働時間なども把握し、さらに上川管内、道内の比較も行い、コスト削減や収益向上に努め、その活動を平成元年から継続してきた点が評価できる。

他の簿記グループの解散によって無所属になったメンバーを迎え入れて、共に活動を行い、若手農業者の受け皿となって活動していることは評価できる。女性の社会参画を推進し、家族経営協定の締結推進とともに、女性の地位向上に影響を及ぼしている。





## 優 秀 賞

グループ名	オホーツク <sup>らくのう</sup> 楽農カフェ	活動開始時期	平成26年
部 門	経営参画	構 成 員 数	22名
市 町 村 名	佐呂間町	年間活動回数	4回程度 随時役員会、打合せを実施

### 1 活動の経過

○ステップアップ農業基礎講座から

平成21年から5年間網走農業改良普及センター遠軽支所と各農協が連携し、遠軽町、湧別町、佐呂間町の酪農女性フレッシュミズ世代を対象としてステップアップ農業基礎講座が開催された。基礎から、専門的な内容まで幅広い分野で学習をしていく中で、「分からないことを聞ける場所ができて良かった」、「酪農という仕事に理解や充実感を感じるようになった」、「この講座のおかげで3町の酪農女性が集まることができた」など前向きな意見が出た。5年で講座は終了するが、「まだ学習したい！勉強がしたい！」、「学習をし続けることが大切」、「自分たちでこの3町の学習会を続けられないか？」という想いを持つ参加者が多数いたことから、自主学習グループを作り、学習を継続することにした。

○夢を叶えるために自分たちで学習しよう

「カフェにいるように楽しく話せる場」、「楽しい酪農」、「オホーツク（3町以外でも参加できる）」をキーワードに「オホーツク楽農カフェ」を結成した。会の目的を「牛とともに夢を叶える」、「仲間とともに楽しく成長する」とし、「学習会の最後には、必ず一人1回は発言すること」をルールとして幅広い分野での研修会を実施している。

### 2 組織体制

運営委員として各地区から会長、事務局、会計をそれぞれ1名選出し、設置している。組織の運営については運営委員を中心として、SNSを活用しながら情報共有などを行っている。

研修会の企画は、会員全員の学びたい内容を確認した後に、運営委員によって詳細を決定し、企画している。



〈オホーツク楽農カフェの皆様〉  
（前段左から2番目：荒田代表）



### 3 活動の概要

#### ○オホーツク楽農カフェ目標シートの作成

第1回の活動では、活動目的である「牛とともに夢を叶える」、「仲間とともに楽しく成長する」ということを会員にも意識してもらうために、「農業と生活の夢」についての目標シートを作成した。そのシートを書くことで、今いる現状と数年後に夢（目標）が叶った自分を具体的にイメージすることができた。さらに、1回目から全員に発表してもらうことで、「一人一回は必ず発言する」というルールも理解が深まった。

#### ○学習の場の確保

平成27年（2年目）までは、前身のステップアップ基礎講座での内容になって、獣医師や普及センター、乳業メーカーなどに講師を依頼して、乳牛の飼養管理についての研修会を年に3回～4回開催した。育児中の参加者も多いことから、子連れ参加可能の学習会にしている。

また、「学習した内容を夫へ伝えるのもいいが一緒に勉強したい」、新規就農希望の夫婦から「参加したい」などの意見があったことから、男女問わず参加を可能にした。参加者を募集する際には、「子連れ参加可能」や「誰でも参加可能」などのキーワードを掲載することで、参加しやすいように配慮した。

平成28年（3年目）の学習会では、「ナイスパートナーを目指して」と題し、標茶町の千葉澄子指導農業士を講師に招いて学習会を開催した。経営の数字に強くなる必要性や、家族でコミュニケーションを取り将来の目標に向かって課題解決をすることの重要性を学んだことをきっかけに、コーチングや市場見学、生活設計など、学びたいテーマが増え、学習会の内容が広がった。平成29年（4年目）以降は、乳牛の飼養管理だけでなく、農村活性や生活設計など岐にわたった内容で学習会を実施している。また、学習会で学んだ内容から、さらに興味を広げ、発展的な活動を展開している。

#### ○より多くの人に学習会に参加してもらうために

平成28年から、自分たちで企画した学習会に、より多くの人に参加して欲しいと考えて、農協を通じて地域の全酪農家に案内している。さらに、オホーツク楽農カフェの活動を発信するとともに、参加者を募集するために、新聞（地方版）への案内の掲載を依頼している。幅広く声かけすることで、参加者が新会員になった事例もあり、オホーツク楽農カフェが発展できる取組になった。

#### ○新たな取組

平成31年には、初めての試みとして日本全薬工業(株)と共催で「あなたの子牛は元気ですか？」と題したワークショップを開催した。開催にあたり、日本全薬工業(株)担当者から、役員に打診があり、開催にこぎついた。開催前の準備から会員が企画に加わり、当日は2名の会員がパネラーとして、ほ育に関する事例報告を行った。ワークショップの参加者は90名を超え、事例報告後には活発な質疑応答がなされ、熱気にあふれたワークショップとなった。この取組みは、オホーツク楽農カフェの活動PRできるという利点もあったため、今後も継続して共催する。



子牛飼養についての学習会を実施



令和元年には、女性が輝ける地域づくりに  
ついてグループワークを実施した



学習会（コーチングを学ぼう）  
和やかな雰囲気での学習会にしている



多くの人が参加したワークショップ  
会員が事例報告を実施

#### 4 活動の成果

##### ○学習した内容を自家で活用

オホーツク楽農カフェは、今年で6年目となるが、その間、地域の酪農女性が学ぶ場を提供してきた。「どんなに易しい質問でも耳を傾け、答える」と会で決めているとおおり、初心者の人にもわかりやすい内容であるため、学んだ内容を各戸で実践している会員も多い。ある会員は、オホーツク楽農カフェに参加する前は、ペナルティを払うこともある程乳質が悪く、乳房炎も多く発症しており搾乳作業が憂鬱になるほどだった。しかしオホーツク楽農カフェで学んだ内容を実践し、さらに普及センターと共同で搾乳作業を基本から見直したことで、優良乳質出荷農家表彰で3位になり、気持ちよく搾乳作業ができるようになった。収入の大半を占める「生乳」について、作業を見直し、実践したことで、牛群での損失乳代（潜在性乳房炎等で損失した乳代で、本来であれば収入になっていた金額）が当初約50万円だったものが、翌年には半額の約25万円になっており、一年で25万円の増収につながった。

さらに、別の会員がオホーツク楽農カフェの学習会で学んできた内容を夫婦で共有し、良質粗飼料生産のための施肥管理や正しい搾乳手法の実践によって、農場の経営改善につながっている。

##### ○刺激を受けて切磋琢磨

令和2年度オホーツク楽農カフェでは、学習した内容を自家で実践した結果を会員内で共有する計画した。この学習会の目的は、実践する中で苦労した点、工夫した点などを共有することで、以前学習した内容を再確認するとともに、「自家で導入するにはどのように実践すべきか？」などを参加者で話し合える機会になることであった。また、ネット上に情報が溢れている世の中であるが、自分たちが依頼した講師から生で講義を受けることで学習内容がしっかりと身に付き、仲間の考え方や質問に刺激を受け、交流の中で悩み相談や共感をすることで会員は成長し続けている。

さらに子連れ参加が可能であることで、育児中の若手女性が参加でき、先輩からのアドバイスをもらえる機会になっている。

##### ○自らの活動をPR

新聞などで活動をPRすることで3町以外からの参加者も増えていることは、地域への波及ともいえる。また、学習会や地域の集まりに参加したくても様々な要因で参加できない人がこの地域でも散見されている。女性が輝ける地域づくりを行っていくためにもまずは声掛けから始めようといった声が複数聞こえている。

#### 5 関係機関の支援

- ・佐呂間町：活動の実施に当たっての会場提供の支援
- ・遠軽町：活動に参加し、農業者のニーズなどをくみ取り、学習会がより充実したものになるように企画を支援

- ・湧別町：会場提供、WEB広報での活動PRなどの支援
- ・JAえんゆう、JAゆうべつ町、JAサロマ：会場の提供や、参加者の呼びかけ
- ・普及センター：活動全てに対する企画運営への支援や他町村の活動等の情報提供、新たな取組への助言等

## 6 今後の活動方向

### ○地域の酪農女性の学習の場の提供

オホーツク楽農カフェの活動を続ける中で会員の入替えも今後考えられるが、会員が悩みを抱えた時や、知りたいことがある時などに、尋ねることができる場所として関係機関や講師の協力を仰ぎながら継続していく。

### ○活動のPR

オホーツク楽農カフェの活動を新聞や町広報などに掲載し、活動を広く認知、学習会の参加につなげていく。

### ○今後の課題

酪農家の労働形態（自営、法人、雇用など）が異なることから、学習会に参加するために休みを取らなければならない、休みが取れない場合などは、参加したくてもできない場合がある。

また、新型コロナウイルスの影響により、新たな開催方法を模索する中で、オンライン学習会の開催を検討したものの、女性農業者が自宅でオンライン学習会に参加するための場所と時間の確保が困難であることが多かった。そのため、今後も学習会の開催について様々な可能性を考えていく。

## 7 有識者による講評

学びたい人は誰でも参加できる雰囲気づくりと、学んだことを実践に移し、経営において好結果を生み出している点や、20～30代の若手女性農業者も含め3町村の女性農業者が、自主学習を続けている点が評価できる。

乳質改善などの経営改善につなげている事例があり、自信を付けている様子がかがわれるため、若手農業者・後継者の技術や資質向上への取組が今後さらに地域に波及していくことが期待される。



## 奨 励 賞

グループ名	しべちや町農業女性カレッジ <small>ちようのうぎようじよせい</small>	活動開始時期	平成29年
部 門	経営参画	構 成 員 数	5名
市町村名	標茶町	年間活動回数	研修会5回程度 役員会4回 総会1回

### 1 活動の経過

標茶町では、平成19年から酪農女性学習組織「ならの木学級(学級長：千葉澄子氏)」が定期的に研修会を行っていた。「ならの木学級」の母体は、道外出身女性の交流組織「ナラの木会(事務局：標茶町農業委員会)」であったため、研修会の対象者も道外出身者であるという誤解が生じていた。

当時の学級長であった千葉澄子指導農業士は、「女性の経営参画が経営の発展に欠かせない」、「女性が元気な地域は農業が元気である」との強い思いから、地域全ての女性農業者が学べる場が必要と考え、平成28年「ならの木学級」の仲間に相談し、賛同する仲間と共に新たな研修会を企画することになった。

平成28年度に「ならの木学級」を解散し、3名の仲間と共に「しべちや町農業女性カレッジ」を設立した。

平成29年度から活動を開始し、年間5回程度の学習会・視察研修など開催。「学びたい女性は誰でも参加できる学習の場」を提供する活動を実施している。

設立当初は4名で活動が開始され、令和元年度から新たに農業士に認定された1名を加えて5名体制で活動している。

### 2 組織体制

現在、5名の構成員で活動しており、塾長が全体総括、関係機関との連絡調整、理事が企画、研修会の進行、事務局長が案内文等文書関係作成、研修講師との打合せ、会計が会計庶務、研修会の運営。監事が監査、研修会の運営を担当し、企画立案から事務、当日の運営まで構成員で取組んでいる。



〈しべちや町農業女性カレッジの皆様〉

右より高橋監事、原田事務局長、千葉塾長、岩本理事、山谷会計



### 3 活動の概要

役員は標茶町内の女性指導農業士・女性農業士で構成され、運営のため年4回程度の役員会、総会を開催し、総会では年間計画を検討、役員会では次回研修会の運営について詳細を決定している。また、講師の依頼や関係機関との連絡調整を都度実施している。

活動は、年間5回程度のNOSAI獣医師などを講師とした研修会の企画運営や、普及センターからのワンポイント技術情報の提供などを行っている。また、現地研修会では、指導農業士の農場視察及び視察後の情報交換を実施している。

実施内容を家庭内で話題となることを目的として必ずJA広報誌に掲載しているほか、託児も用意し、子育て中の女性も参加しやすいように工夫している。

酪農・農業を学びたい女性に学習できる機会を提供する場として、研修会は誰でも参加可能を基本としており、標茶町外からの参加も毎回多く見られ、平均すると約1割が標茶町外からの参加者である。

年度	内容	講師	出席者
H29年	4/19 健康な仔牛とその管理について	NOSAI道東 茅先史 獣医師	43名
	5/17 仔牛の病気について学ぼう！	NOSAI道東 佐々木瑛子 獣医師	53名
	10/12 健康な仔牛を育てるために	NOSAI道東 木村晃子 獣医師	58名
	11/20 乾乳期～分娩までの飼養管理	NOSAI道東 岡由子 獣医師	46名
	12/14 釧路家畜市場で実際に売れる哺乳牛を見る	JALべちゃ 販売課	25名
H30年	4/25 乳房炎・予防と治療 乳検ブチ情報(表の見方)	NOSAI道東 佐々木瑛子 獣医師 普及センター 椿文佳 普及職員	56名
	5/23 生乳への抗生物質残留事故防止にむけて 乳検ブチ情報(体細胞数)	家畜保健所 廣川友弥 獣医師 普及センター 椿文佳 普及職員	36名
	10/12 繁殖改良について 乳検ブチ情報(繁殖について)	NOSAI道東 茅先史 獣医師 普及センター 椿文佳 普及職員	51名
	11/20 厚岸町哺育育成牧場視察研修	JA釧路太田哺育育成センター	26名
	12/12 やりがいのある農業経営を目指して あなたの年金はいくらになる？	千葉澄子 女性農業委員3名	23名
R1年	4/23 強い仔牛を産ませるための乾乳管理 乾乳期のBCS～STOP肥満！	NOSAI道東 岡由子 獣医師 普及センター 椿文佳 普及職員	47名
	5/22 近藤英實牧場視察研修 牛のワクチンについて	近藤英實指導農業士 NOSAI道東 茅先史 獣医師	34名
	10/31 櫛大倉ファーム視察研修	大倉誠一指導農業士	33名
	11/25 組合員勘定の見方について 伝票整理ワンポイントレッスン	JALべちゃ ふれあい相談課 千葉澄子	22名

【平成29年度から令和元年度までの活動実績】



〈参加者からの相談に答える千葉塾長（右）〉



〈牧場視察では子牛の飼養管理を学んだ〉

### 4 活動の成果

女性カレッジ研修会の参加者は、夫と一緒に関係機関の話を聞き、指導を受けるなど意識の変化が見られることから、当活動が女性の経営参画に確実に貢献している。

JAからも「夫婦で年始の営農計画協議に参加する農場が増えた」と評価されている。

関係機関職員の中にも、「話をするのであれば奥さんも呼ぼう」と心がける職員が増えるなど

意識変化が見られる。

組織を企画・運営する活動の中で、活躍が地域に認められ、役員の農業士1名が指導農業士に推薦された。また、鉏路地区指導農業士農業士連絡会議においても女性役員を要望されるなど女性の社会参画が進んでいる。

また、女性カレッジの取組が担い手育成に評価され、カレッジ設立後全国指導農業士研修会、道内4カ所の地域で塾長が担い手育成の取組について講演している。

## 5 関係機関の支援

- ・ 鉏路北部地区指導農業士・農業士会：運営費助成、研修会講師、設立時に関係機関へ助言
- ・ 標茶町役場：託児協力、無料バスの手配等運営支援
- ・ 標茶町農業委員会：女性活躍推進の講師
- ・ N O S A I 道東：研修会の企画助言、研修会講師
- ・ J A しべちゃ：運営費助成、研修会講師
- ・ 普及センター：運営助言、研修会講師

## 6 今後の活動

今後も活動を継続し、女性の経営参画を推進する。

次世代の女性リーダー育成を常に心がけ、活動の継続性を重要視し、若手のリーダー育成が重要と考え活動を行う。

将来は「根鉏カレッジ」のような標茶町だけにとらわれない、広い範囲での交流・研修の場を作りたいと考えている。

## 7 有識者による講評

誰でも参加できる学習の場の提供に取り組み、門戸を開き、学習したことを必ずJAだよりに掲載するなど、女性の経営参画をPRしつつ、学習会の企画立案から運営までを役員自ら実施していることは評価できる。

生産技術を学ぶだけでなく、託児を設けて女性農業者の交流、相談できる仲間づくりの場となり、町外からの参加もあり、この地域の女性農業者の拠り所となっていることがわかる。

## 令和2年度（2020年度）女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業実施要領

### 1 趣 旨

農業経営の改善や起業化、農村生活の充実、地域の振興などのために積極的に活動している女性農業者や高齢者のグループ又は個人等を表彰し、その活動成果を広く紹介することにより、地域における女性・高齢者活動の促進と農業・農村の発展に資するものとする。

### 2 主催及び後援

#### (1) 主 催

北海道

#### (2) 後援

北海道農業協同組合中央会、（一社）北海道農業会議、  
（公財）北海道農業公社、（公社）北海道農業改良普及協会、  
（株）日本農業新聞北海道支所

### 3 参加者の資格及び対象とする活動内容

道内の農村で活動する女性、若しくは高齢者を中心としたグループ、又は個人とする。

なお、(4)の高齢者活動については、個人は65歳以上、グループは構成員の半数以上が高齢者（65歳以上）とする。

また、(5)の若手女性活動については、概ね45歳未満とし、グループは役員等に若手女性が含まれており、かつ、構成員に複数の女性が含まれているものとする。

#### (1) 起業活動

ア 地場農産物を活かした食品の加工・販売や直売、農家レストラン、ファームインなどの農業関連の生産・経済活動

#### (2) 経営参画

ア 女性が積極的に経営参画し、経験やアイデアを活かして経営の拡大や改善、労働環境の向上などに取り組む活動

イ その他、女性の経営参画や労働環境の向上に向けて取り組む諸活動

#### (3) 地域社会参画

ア 農業・農村が持つ資源を活かした都市・農村交流、食育・食文化形成、環境保全・美化、伝統文化の伝承などの地域振興活動

イ 女性による農業委員や農協役員、審議会委員等、地域の方針決定の場における活動

ウ その他、男女共同参画社会の実現や女性の地域社会参画に向けて取り組む諸活動

#### (4) 高齢者活動

ア 生涯現役を目指し、豊富な経験と技術を活かした農産物の生産・加工・直売などの生産・経済活動や担い手等への支援、都市・農村交流、伝統文化の伝承などの地域振興活動

イ その他高齢者が中心となって取り組む諸活動

#### (5) 若手女性活動



ア 他産業で培った知識や経験を活かして取り組む起業や地域活動、担い手の支援、これまで女性が携わることの少ない、あるいはなかった経営技術の習得などによる積極的な経営参画・起業活動

イ その他若手女性を中心となって取り組む諸活動

#### 4 賞の種類

最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞若干数

#### 5 募集及び審査方法

(1) 市町村、農業委員会、農業協同組合等は、活動内容のテーマに即し、優秀と認められる事例を別紙様式により総合振興局長又は振興局長に推薦する。

なお、推薦する際には、推薦書に農業改良普及センター所長又は支所長の意見を添付する。

(2) 過去に推薦のあった事例については、次のいずれにも該当する場合、再推薦を妨げないものとする。

ア 最優秀賞及び優秀賞を受賞していないこと。

イ 過去に推薦した部門と異なる部門での推薦であること、もしくは、過去に推薦した時点以降の実績を鑑みた場合に、再度推薦することが望ましいと判断されること。

(3) 総合振興局長・振興局長は、内容を確認のうえ、農政部長に推薦書を提出する。

(4) 農政部長は、事例の審査に当たり、審査会議を開催し、有識者等の意見を聞いた上で、賞を決定する。

なお、審査は、次の項目で行うこととし、審査要領は別に定める。

ア 活動の成果

イ 自主性と創意工夫の状況

ウ 農業生産や地域活性化への貢献状況

エ 今後の発展

#### 6 募集期限

令和2年8月28日（金）

#### 7 審査結果の発表

入賞事例は、11月上旬を目途に決定し、総合振興局・振興局において北海道知事賞状及び副賞を交付する。

なお、活動内容は、道のホームページ等に掲載するものとする。

#### 8 全国表彰への推薦

入賞事例については、翌年度、全国段階の表彰事業等に推薦する。

令和2年度（2020年度）女性・高齢者チャレンジ活動表彰審査会議 出席者（有識者）

所 属	職・氏名
札幌学院大学法学部	教 授 小 内 純 子
北海道農業協同組合中央会	協同活動推進室長 長 縄 道 弘
(株)日本農業新聞北海道支所	次 長 尾 原 浩 子
(公社)北海道農業改良普及協会	編 集 部 長 竹 津 明
(株)道銀地域総合研究所地域戦略研究部	主任研究員 柿 田 郁 子

これまでの受賞団体一覧

◇ 農村の暮らしと地域を活かす女性・高齢者グループ表彰

年度 区分	10				11				12				13				14										
	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門		
最優秀賞	十勝 足寄町	レストランメイブル	H5	7	起業化・食 文化形成	宗谷 稚内市	夕市の会	S59	18	高齢者	網走 女満別町	開陽グリーンマー ケット	H2	20	起業化・食 文化形成	網走 紋別市	紋別簿記会	H3	42	農業経営の 改善	上川 剣淵町	剣淵町特産研究グ ループ福有会	H6	9	起業化・食 文化形成		
	渡島 八雲町	八雲漬物研究グルー プ	S62	16	起業化・食 文化形成	石狩 千歳市	千歳市農業協同組合 女性部食品研究会	S57	28	起業化・食 文化形成	渡島 木古内町	J A 木古内女性部 直売活動グループ	H9	27	起業化・食 文化形成	渡島 上磯町	六輪村	H9	12	起業化・食 文化形成	網走 斜里町	つゆ草会	H3	64	起業化・食 文化形成		
優秀賞	宗谷 歌登町	簿記サークル 「たんぼほの会」	H4	32	主体性を発 揮した農業 担い手活動	渡島 上磯町	J A 上磯町フレッ シュミセス スマイル倶楽部	H55	26	広域的な ネットワーク 形成	空知 新十津川 町	空知西部地区づく り農村女性グルー プ連絡会	H元	220	広域的な ネットワーク 形成	空知 南穂町	なんぼろみどり会	S59	5	起業化・食 文化形成	胆振 厚真町	手作りグループ あすなろ	H8	6	起業化・食 文化形成		
						上川 旭川市	旭川市農村女性ネッ トワーク “かがやき”	H8	522	広域的な ネットワーク 形成	宗谷 浜頓別町	浜頓別砂金野菜振興 会	H2	12	高齢者	上川 富良野市	域・活きふらのネッ トワーク	H7	128	広域的な ネットワー ク形成	空知 由仁町	ゆにハーブの会	H7	101	農村地域の環 境改善・都市 との交流		
特別賞	石狩 新篠津村	J A 新しのつ女性部 生活見直し研究グ ループ	S63	26	起業化・食 文化形成	後志 蘭越町	蘭越町農業経営改善 実践委員会	H4	21	農業経営の 改善活動	後志 ニセコ町	ニセコボキボキクラ ブ	H4	7	農業経営の 改善活動	後志 余市町	果夢里	H3	8	農業経営の 改善活動	渡島 八雲町	ユースラップハーブの 会	H8	17	農村地域の環 境改善・都市 との交流		
	後志 共和町	J A 前田女性部 食品加工グループ	S63	12	起業化・食 文化形成	空知 滝川市	あゆみの会	H4	8	農業経営の 改善活動	胆振 厚真町	つくしん簿	S63	12	農業経営の 改善活動	根室 別海町	すもも倶楽部	H9	11	農業経営の 改善活動	後志 京極町	J A ようてい女性部 京極支部加工部会	H5	11	起業化・食 文化形成		
奨励賞	空知 美瑛市	郷里の味なかむら えぷろん倶楽部	H10	25	起業化・食 文化形成	檜山 乙部町	乙部町イチゴ加工部 会	S60	6	起業化・食 文化形成	石狩 厚田町	J A 北いしかり女性 部厚田ブロック加工 販売グループ	H2	26	起業化・食 文化形成	石狩 江別市	江別ふれあいの里	H10	10	起業化・食 文化形成	宗谷 豊富町	ホピークラブ	H8	8	起業化・食 文化形成		
	上川 当麻町	当麻町食生活研究会	S49	22	起業化・食 文化形成	網走 清里町	花いちもんめ	H6	4	起業化・食 文化形成	檜山 瀬棚町	カントリーマザーク ラブ	H5	7	起業化・食 文化形成	檜山 熊石町	熊石町果菜栽培振興 会	S55	10	起業化・食 文化形成	釧路 鶴居村	J A 幌呂女性部 チーズ部会	H11	10	起業化・食 文化形成		
	留萌 遠別町	J A 遠別女性部ドラ イフラワーサークル 「彩」	H4	11	農村地域の 生活改善運 動	胆振 壮瞥町	J A とうや湖女性部 壮瞥加工研究会	H6	5	起業化・食 文化形成	上川 名寄市	カントリーママ・ クラブ	H9	12	起業化・食 文化形成	胆振 伊達市	レディースネット	H7	10	起業化・食 文化形成							
	網走 端野町	えんじゆの会食研究 グループ	H7	5	起業化・食 文化形成	十勝 本別町	まめっこ倶楽部	H9	9	起業化・食 文化形成	上川 士別市	上士別ふるーる（上 士別をさすこう会）	H2	6	起業化・食 文化形成	釧路 浜中町	HaNaKoの会	H11	9	起業化・食 文化形成							
	釧路 鶴居村	J A 幌呂女性部 簿記グループ 「キャンディーズ」	H4	6	主体性を発 揮した農業 担い手活動	釧路 標茶町	標茶町1・5運動被 服研究会	S62	19	起業化・食 文化形成	留萌 小平町	小平町農産加工 「うまい会」	H7	7	起業化・食 文化形成												
	根室 別海町	上風連 すみれ会	H6	8	豊かな老 後に備えた高 齢者活動	日高 静内町	J A しずない女性部 さくら押し花研究会	H4	25	起業化・食 文化形成	十勝 帯広市	みのりの会	H6	4	起業化・食 文化形成												
						釧路 音別町	乳製品加工研究会	H12	4	起業化・食 文化形成	釧路 帯広市	乳製品加工研究会	H12	4	起業化・食 文化形成												
						根室 標津町	標津町 おいらんぼ倶楽部	H2	23	起業化・食 文化形成	根室 標津町	おいらんぼ倶楽部	H2	23	起業化・食 文化形成												
						宗谷 浜頓別町	乳製品加工グループ 「モルケライ」	H9	81	広域的な ネットワーク 形成活動	宗谷 浜頓別町	乳製品加工グループ 「モルケライ」	H9	81	広域的な ネットワーク 形成活動												

年度	15					16					17					18					19					
	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	支庁名 市町村名	団体名	設立 時期	構成 員数 (当時)	活動部門	
最優秀賞	空知 岩見沢市	上志文ふれあいの郷	S57	18	起業化・食 文化形成	空知 深川市	JAきたそらち女性 部 多度志支部加工部会	H4	13	高齢者活動	空知 砂川市	美土里直売所	H9	5	起業化・食 文化形成	渡島 北斗市	有限会社六輪村	H9	6	起業化・食 文化形成	渡島 北斗市	有限会社六輪村	H9	6	起業化・食 文化形成	
	十勝 新得町	新得町パレットの会	H5	12	起業化・食 文化形成	渡島 八雲町	NPO八雲ハンドメ イドの会	H4	18	起業化・食 文化形成	上川 愛別町	愛別町農村女性グ ループネットワーク	H11	31	起業化・食 文化形成	上川 名寄市	緑のめぐみ会	H11	5	高齢者活動	上川 名寄市	緑のめぐみ会	H11	5	高齢者活動	
	空知 幌加内町	そばっこ倶楽部	H11	10	起業化・食 文化形成	上川 上富良野 町	句ちゃん	H12	10	起業化・食 文化形成	後志 余市町	余市町梅川こだわり グループ	H11	4	起業化・食 文化形成	胆振 伊達市	伊達だいが工房	H12	4	起業化・食 文化形成	胆振 伊達市	伊達だいが工房	H12	4	起業化・食 文化形成	
優秀賞	十勝 新得町				起業化・食 文化形成	十勝 足寄町	ふきのとう	H10	5	起業化・食 文化形成	十勝 新得町	JA新得町女性部 「ポテトサークル」	S60	22	高齢者活動	十勝 新得町	JA新得町女性部 「ポテトサークル」	S60	22	高齢者活動	十勝 新得町	JA新得町女性部 「ポテトサークル」	S60	22	高齢者活動	
	石狩 千歳市	グループ野菜&グ ループ旬	H11	20	起業化・食 文化形成	榑山 今金町	農村女性の会	H15	16	起業化・食 文化形成	渡島 知内町	わくわく工房	H14	32	起業化・食 文化形成	石狩 石狩市	いしかり農産物加工 グループ連絡協議会	H14	76	農村地域の環 境改善・都市 との交流	石狩 石狩市	いしかり農産物加工 グループ連絡協議会	H14	76	農村地域の環 境改善・都市 との交流	
	渡島 大野町	大野町 かりんの会	H7	17	農村地域の環 境改善・都市 との交流	後志 喜茂別町	喜茂別特産品加工グ ループ	H9	16	起業化・食 文化形成	日高 静内町	JAしずない女性部 もぎたて朝市会	H8	10	起業化・食 文化形成	榑山 上ノ国 町	上ノ国たんぼぼ会	H1	7	高齢者活動	榑山 上ノ国 町	上ノ国たんぼぼ会	H1	7	高齢者活動	
奨励賞	榑山 奥尻町	奥尻野菜振興会	H13	8	高齢者活動	胆振 洞爺村	ポップマムの会	H11	20	農村地域の環 境改善・都市 との交流	後志 倶知安町	JAようてい女性部 倶知安支部野菜作り グループ	H4	7	起業化・食 文化形成	後志 倶知安町	JAようてい女性部 倶知安支部野菜作り グループ	H4	7	起業化・食 文化形成	後志 倶知安町	JAようてい女性部 倶知安支部野菜作り グループ	H4	7	起業化・食 文化形成	
	後志 黒松内 町	豆っ子クラブ	H7	5	起業化・食 文化形成	日高 静内町	かんとりーママ	H8	5	起業化・食 文化形成	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	
	留萌 羽幌町	羽幌町農産物直売グ ループ「さわやか市 場」	H11	18	起業化・食 文化形成	釧路 白糠町	紫陽花グループ	H14	6	起業化・食 文化形成	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	留萌 留萌町	愛たくらぶ	S61	8	高齢者活動	
	網走 佐呂間町	あじな倶楽部	H6	4	起業化・食 文化形成																					
	釧路 弟子屈町	JA藤周湖女性部加 工部会	H13	6	起業化・食 文化形成																					

◇ 女性・高齢者チャレンジ活動表彰

年度 区分	20				21				22				23				24			
	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門
最優秀賞	上川 美深町	伊藤 清	H15	個人	高齢者活動	渡島 北斗市	山本 宮子	H10	個人	起業活動	留萌 遠別町	フレッシュ市場 花菜夢	H14	17	起業活動	上川 南高良野町	農産物直売所「作倶 菜」	H18	12	起業活動
	渡島 八雲町	柴田 節子	H2	個人	経営参画 起業活動	石狩 札幌市	A・Cキョウトウグループ	H12	8	地域社会参 画	胆振 むかわ町	曙光会	S40	25	高齢者活動	空知 長沼町	未楽瑠加工グループ	H8	7	起業活動
優秀賞	上川 士別市	元気母さん！タの市	H11	10	起業活動	十勝 士幌町	せわやき玉子	H18	6	地域社会参 画	上川 比布町	びっぴっ味菜	H10	3	高齢者活動	渡島 函館市	J A 新はこだて女性 新函館支店女性部	S59	32	地域社会参 画
	石狩 千歳市	千歳市グリーン・ ツーンリズム連絡協議 会	H17	38	起業活動	後志 余市町	JAよいち女性部	S44	43	起業活動	胆振 伊達市	ベジママ	H17	7	起業活動	空知 沼田町	農天氣の会	H13	6	地域社会参 画
奨励賞	榑山 江差町	新函館農業協同組合 女性部江差支部	S32	28	高齢者活動	石狩 北広島市	そば処「虹」	H14	8	高齢者活動	渡島 七飯町	新函館農業協同組合 七飯支店女性部	S30	38	起業活動	石狩 当別町	青山直売振興会古狸 庵	H3	3	高齢者活動
	空知 株別町	ちっぶの里	H9	6	起業活動 高齢者活動	上川 東神楽町	東神楽まなび会	H元	8	起業活動	日高 日高管内	日高女性軽種馬ネット ワケ「馬女ネット」	H21	48	経営参画・ 地域社会参画					
	十勝 中札内村	中札内村生活経営推 進グループ	S46	9	地域社会参 画															
	網走 紋別市	ふれあい青空市場	H15	19	高齢者活動															

年度 区分	25				26				27				28				29			
	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門
最優秀賞	空知 岩見沢市	小西 泰子	H元	個人	起業活動	空知 北竜町	村井 宣夫	H17	個人	高齢者活動	オホーツク 北見市	ところよめさん ねっとわーく・ さくらちゃん	H7	20	地域社会参 画	オホーツク 北見市	白滝じゃが生産部会 加工班	H14	8	地域社会参 画
	空知 深川市	昂 (うづら)	H19	12	地域社会参 画	空知 沼田町	沼田とっておき 豆腐	H13	4	地域社会参 画	空知 長沼町	マオイFood 研究会	H20	8	地域社会参 画	留萌 吉前町	モーターみるく倶楽 部	H14	14	経営参画
優秀賞	上川 士別市	上土別をきずこう会 トマト部会	S62	14	高齢者活動	オホーツク 小清水町	夢レストランの会	H15	11	高齢者活動	留萌 遠別町	花の里	H9	5	高齢者活動	留萌 厚沢部 町	東谷 弥生	H14	個人	起業活動
	渡島 八雲町	八雲町東野ほっぺの 会	H11	5	起業活動	石狩 当別町	当別町生活改善 実践グループ 連絡協議会	S49	36	地域社会参 画	石狩 石狩市	おやふる工房	H22	9	高齢者活動	オホーツク 小清水 町	小清水町レバーブ生 産グループ	H18	4	起業活動
奨励賞	日高 浦河町	花植会 (ハナウエル カム)	H14	11	地域社会参 画						石狩 上ノ国町	丸山 由美子	H21	個人	地域社会参 画					

年度 区分	30					1					2				
	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門	支庁名 市町村名	団体又は個人名	設立 時期	構成 員数	活動部門
最優秀賞	林-ツ 津別町	川瀬 保子	H20	個人	地域社会参 画	林-ツ 網走市	テイリーウーマンズ	H24	5	経営参画	十勝 広尾町	砂子田 円佳	H19	個人	地域社会参 画
優秀賞	日高 日高町	日高町農産物直売振 興会	H13	11	起業活動	榎山 今金町	川上 絹子	H24	個人	地域社会参 画	上川 名寄市	風連町2区簿記グ ループ	H1	7	経営参画
奨励賞	空知 秋父別町	かあちゃんの野菜畑	H13	3	地域社会参 画						林-ツ 佐呂間 町	オホーソク菜農力 フェ	H26	22	経営参画
											釧路 標茶町	しべちや町農業女性 カレッジ	H29	5	経営参画

---

令和2年度（2020年度）  
女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業事例集

---

令和3年（2021年）3月発行

発行 北海道

編集 北海道農政部農業経営局農業経営課

札幌市中央区北3条西6丁目

TEL011-231-4111 内線27-365

TEL011-204-5385（直通）

FAX011-232-0026

---